

平成28年度「GKP広報大賞」エントリーシート

エントリーする団体名の名称 北九州市	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 上下水道局海外事業課 伊藤智則
代表者氏名 上下水道局長 諫山修	電話：093-582-2012, FAX：093-582-2088 Email：tomonori_itou01@city.kitakyushu.lg.jp
(他薦の場合) 上記団体を推薦する団体の名称	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】

部門名 (1)報道部門 ①テレビ報道部門	事例名 ベトナムのマスコミと連携した下水道の普及促進活動
-------------------------	---------------------------------

事例の概要（適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい）

<背景>
 北九州市は、かねてより下水道分野の国際技術協力に取り組んでおり、アジア諸国をはじめとした国・都市の水環境改善に取り組んでいる。これら技術協力の成果は、現地下水道セクターに浸透しつつあるが、**下水道のユーザーである市民の意識を向上**させなければ、下水道の普及促進や持続的な事業運営に繋がらない。
 そこで、今回、下水道の有効性や必要性を市民と共有することを目的に、**本市上下水道局と現地メディアが連携**した情報発信番組を作成することとした。

<現地メディアが注目した取り組み>

I. 日越合同による市民啓発活動
<概要>
 ハイフォン市民200人参加もと、**下水道に纏わる演劇やクイズ大会、市民参加の環境清掃活動**を実施
 その他、**管渠調査ロボットの体験コーナー**や円借款で実施中の**下水処理場建設現場写真展**などを開催
<事業のねらい>
 水環境改善・浸水被害防除に重要な役割を担う**下水道に興味を持ってもらう**
 下水処理場は郊外に建設される事が多いため、写真展などを通じて、**下水道を身近に感じてもらう**と共に、**日本が誇る高い技術力を発信**する
<特徴/効果>
 啓発活動終了後のアンケートにおいて、**下水道に対する興味・理解が深まったとの意見が多数**
日越の行政・市民が連携した清掃活動は初の試みであったが、同じ作業を行う事で両者に親近感が湧き、笑顔溢れる啓発活動となった



広報活動の様子を報道



日本語ニュースも作成

II. 地元企業による管渠調査の実演
<概要>
地元企業が開発した管渠調査ロボットの無償提供、実務者による実演、技術指導など
<事業のねらい>
 管渠維持管理の重要性や手法の技術移転に加え、本邦技術をPR
<特徴/効果>
 管渠調査の実演を通じ、アジアでは認識が低い安全対策についても**北九州市の経験、ノウハウを移転**

エントリー事例の特徴

- ・現地メディアとの連携により、下水道の有効性や日本が積極的に進める国際技術協力の取り組みが**効率的に市民に浸透**した。
- ・現地カウンターパートも**メディアを活用した広報活動の重要性**を認識し、今後の**広報戦略の一つ**に位置づけられた。

付属資料の提出	あり ・ なし （どちらかに○）
---------	------------------